

夏の締めは「すいか」

暦では処暑の候。夏もいよいよ店じまい。去年のような脅威的な猛暑に見舞われずにすみ、ホッと胸を撫で降ろしていたのも束の間。九州北部では、秋雨前線による甚大な洪水被害を被った。自然災害や被害の程度が、年を重ねるごとに拡大し、猛威を振るう感は否めない。便利さや豊かさばかりを追及し、失ってはいけないものを次々に失っていく。現代社会の産物であり、結果である。縁側に腰をおろし、すいかにかぶりつく。口の周りをしずくで真っ赤にしながら、庭に向かって「プッ！プッ！」と、種を飛ばしたあの夏を懐かしく回想した。

